

# 日本語音声を用いた中国語発音習得法試案

著者	黄 名時
雑誌名	名古屋学院大学外国語学部論集
巻	8
号	2
ページ	33-50
発行年	1997-04-30
URL	<a href="http://doi.org/10.15012/00000827">http://doi.org/10.15012/00000827</a>

# 日本語音声を用いた中国語発音習得法試案

黄 名 時

## 1. はじめに

中国語の学習において留意すべき事柄は多数あるが、とりわけ初学者にとっては発音を如何に的確に把握するかが習得上の大きな課題の一つであろう。発音を順調にマスターできるか否かは、その後の中国語学習がスムーズにいくかどうか、更に言えば学習者が中国語を好きになれるか否かにかかわる重要な第一歩である。語音の習得が初学者にとって最初の関門と言えよう。

筆者はこれまで大学の授業での発音指導のなかで、日本人学生の中国語の語音学習の難点がどこにあるのか、つまり具体的にどのような発音の習得が学生にとって難しいのかを見いだすことに注意を払い観察を行ってきた。そして、このような日本人学生に共通する発音上の弱点をより速く克服する方法として、生の発音指導と同時に日本語の類似音を紹介し理解させることによってそれぞれの発音の把握と習得を助けてきた。学生にとって分かり易い日本語の音声例を実際に援用して示すことは学習上ある程度効果をあげることが可能である。小稿は筆者の以上のような中国語音の教学経験に基づいた発音習得法を試案として整理し集約したものである。

ここでは、最初の発音学習の段階で扱う「中国語音節表」の400余の音節について、日本人学生の発音習得上の難点になっている音節を重点的に取り上げ、日本語の近似音声を最大限活用して初学者の中国語音習得のためのアプローチ法の一つとしてこれを参考に供したい。なお、本文では、中国語と日本語の発音対照という形式で叙述するが、小稿は初学者の入門段階としての語音学習を想定しているので、ここでは各音節の「声調」の問題については暫く置くこととする。

## 2. 語音について

中国語(現代漢語)には小稿《附表》[共通語の声母韻母組合せ一覧表]に見る如く総数400余の基本となる音節がある。その音節は大多数が声母と韻母が組合わさって成り立っている。表に現れているように、声母が21個、韻母が38個ある<sup>1)</sup>。一つの音節は、声母なしに単に韻母のみでも成り立ちうるが、韻母なしには成立し得ない<sup>2)</sup>。

### 3. 声母

特徴として、21個ある声母のうち‘有声音’はm, n, l, rの4つのみで、その他の声母はすべて‘無声音’であり発音時に声帯を震わせないように注意する。

声母のなかで‘唇音’ m [m], ‘舌尖音’の n [n] と l [l], ‘舌歯音’ s [s], ‘舌面音’ x [ʃ] 及び‘舌根音’ h [x] の6つに関する発音は他に混同するような声母がなく、またそれぞれ日本語の語音に相当近いため初学者にとって問題の少ないものといえよう。以下にそれぞれ日本語音の対応例をいくつか示しておこう。(中国語音をすべて忠実にうつすことはできないが小稿では便宜上カタカナ表記を用いる。)

- m 唇音：日本語以上に上唇と下唇が強く触れ合う  
ma (マ) mo (モ) mai (マイ) mei (メイ) mao (マオ) mou (モウ)
- n 舌尖音：日本語以上に舌先を上歯茎にしっかりつける  
na (ナ) nai (ナイ) nei (ネイ) nao (ナオ) nou (ノウ)
- l 舌尖音：舌先を上歯茎につけるが英語の‘l’ほどではなく、むしろ日本語音と英語音の中間ぐらいの発音である  
la (ラ) lai (ライ) lei (レイ) lao (ラオ) lou (ロウ)
- s 舌歯音：日本語に近いが、もっと舌先を下の前歯にあてるようにする  
sa (サ) si (ス) sai (サイ) sou (ソウ) su (スウ)
- x 舌面音：日本語のシの要領であるが、舌先を下の前歯にころもち触れるぐらいのつもりで発音するとよい  
xi (シ) xia (シア) xiao (シアオ) xie (シエ)
- h 舌根音：日本語のハ行子音よりも強い摩擦音で、喉の奥から強く出す  
ha (ハ) hai (ハイ) hao (ハオ) hou (ホウ) hua (ホフ)

以上の6つの声母については上述の如くかなり日本語音に近似しているため学習上ほぼ問題ないと思われるが、次に挙げる唇音 f [f] および、そり舌音(舌尖後音)の sh [ʃ] と r [ʒ] については日本語にない発音であるため、習得上努力を要するものである。

まず f については英語既習者であれば比較的容易であろう。f は日本語のフの子音ではなく、英語の f に近いのでそれを参考にすべきである。f の発音の特徴は上歯と下唇が触れ合う点にある。これに関する音節は下記の9つである。

- fa 英語 far [fa:r] の [fa:] に近い
- fo 英語 four [fo:r] の [fo:] に近い
- fei 英語 feint [feint] の [fei] に近い
- fan 英語 fan [fæn] に近い
- fu 英語 food [fu:d] の [fu:] の発音に近い

その他の音節 fou, fen, fang, feng についてもこの英語音 f を念頭に置いて発音練習する必要がある。

次に sh と r であるが、これは‘捲舌’を伴う発音で日本人初学者にとっては最も習得困難な声母の一つである。

まず、声母 sh の発音要領を説明しよう。これは舌尖後阻の‘無声摩擦音’とよばれるもので、舌先を上側にそり上げ硬口蓋まで近づけて、わずかの隙間から息を出す。声帯は震えないようにする。

声母 r [ㄹ] の発音要領は基本的に sh と同じであるが、r は‘有声摩擦音’であり、発音時には若干の摩擦とともに声帯が震える。

前述したように上記 sh と r はいずれも‘捲舌音’（そり舌音）に属し、日本語音にない発音であるため、習得上特に留意すべきものである。

さて、合計 21 個ある声母のうち上述の 9 つ以外に、初学者にとっては厄介な 6 組（計 12 個）の相対する有気音と無気音がある。この有気/無気の区別は日本語では特に意識されないため日本人学生にとって最も難しいものの一つであるが、中国語には有気/無気の対立があり、したがって意味が違ってくるので両者の区別が一つの重要なポイントになる。常に両方を対照させながらその違いを把握して発音練習する必要がある。

6 組の対立する有気音と無気音のペアをまず列記しておこう（左に無気音、右に有気音を示す）。

- ① b : p, ② d : t, ③ g : k, ④ z : c, ⑤ zh : ch, ⑥ j : q

各ペアの声母の発音要領は、両者とも口の形や舌の位置は全く同じであるが、無気音は発音するときの破裂が弱く有気音は破裂が強い。b, d, g, z, zh, j が無気音であるのに対し、p, t, k, c, ch, q は有気音で、後者は息を強く出すのが特徴である。発音の際に息を強く吐く要領で行えばコツがつかめよう。発音練習に当たって、紙切れなどを口元にあてて息が強く出るか否かを確かめるとよい。但し、有気音無気音のいずれも‘無声音’であるので、発音時に声帯を震わせないように注意する。

前述の如く日本語では通常、有気/無気の区別や存在は意識されることがないが、実際にはその違いが歴然と指摘できるケースが多々ある。ここでは、該当すると思われる日本語の音声例（含外来語）を有気と無気とに分けてそれぞれいくつか列記し、参考に供する<sup>3)</sup>。

- ① b [p] 無気の‘唇音’ ←→ p [p'] 有気の‘唇音’

ba（立派の‘バ’） — pa（パリ・パットの‘パ’）

bo（鳩ぽっぽ・かっぽ・しっぽの‘ポ’） — po（ポイントの‘ポ’）

bai（一杯の‘パイ’） — pai（パイプ・パイナップルの‘パイ’）

bei（疾病の‘ベイ’） — pei（ペイ・ペイントの‘ベイ’）

bi (ヒッピー・ハッピーの‘ピ’) — pi (ピークの‘ピ’)

bu (陳腐・パイプ・還付・発布の‘ブ’) — pu (プリントの‘プ’)

無気音 b も有気音 p も共に無声音であり、声帯を震わせない。音節の発音練習では日本人学生にとって無気音 b が濁音のようになりがちだが、例えば ‘ba’ は上記日本語例の‘立派’のバの如く、決して濁音にならないように注意する。有気音 p のほうは力強く息を吐くようにするのがポイントである。

② d [t] 無気の‘舌尖音’ ←→ t [t'] 有気の‘舌尖音’

da (わたし・綿・カッターの‘タ’) — ta (田・樽・タワーの‘タ’)

dai (大体・交代・包帯の‘タイ’) — tai (鯛・太陽・タイヤの‘タイ’)

dei (予定・公定の‘テイ’) — 「tei」程度の‘テイ’(tei は共通語音にはないが北京語音にある)

dao (機織<sup>はたおり</sup>の‘タオ’の部分) — tao (倒す・タオルの‘タオ’)

dou (列島・教頭の‘トウ’) — tou (塔・東京・灯籠の‘トウ’)

③ g [k] 無気の‘舌根音’ ←→ k [k'] 有気の‘舌根音’

ga (学科・消化の‘カ’) — ka (蚊・科目・烏・カラオケの‘カ’)

gai (紹介・一階の‘カイ’) — kai (開始・会合・海上の‘カイ’)

gei (滑稽・合計の‘ケイ’) — kei (警察・経理・稽古の‘ケイ’)

gao (赤鬼の‘カオ’の部分) — kao (香り・顔の‘カオ’)

gou (格好・学校の‘コウ’) — kou (‘乞う’に近い)

gu (絶句・十中八九の‘ク’) — ku (九・苦闘・空気の‘ク’‘クゥ’)

gua (たくあん・エクアドルの‘クア’) — kua (桑・鍬の‘クア’)

guai (‘具合’に近いが濁音ではない) — kuai (‘くわい’または‘こわい’に近い)

④ z [ts] 無気の‘舌歯音’ ←→ c [ts'] 有気の‘舌歯音’

zi (天津・魚釣り・一つの‘ツ’) — ci (お月様・突指の‘ツ’)

zai (‘ツァイ’に近い) — cai (zai に対する有気音)

zei (‘ツェイ’に近い) — 「cei」(共通語音には無いが北京語音にある)

zu (共通・一通の‘ツゥ’) — cu (zu に対する有気音)

z の発音要領は、舌尖を平らに伸ばして上歯の裏に当て、息で隙間を開け摩擦させて出す。無気音である。これに対し、c も z と同じ要領で発音するが、有気音である。

⑤ zh [tʂ] 無気の‘捲舌音’ ←→ ch [tʂ'] 有気の‘捲舌音’

前述の声母 sh と同系の‘そり舌音’で、‘舌尖後阻’の無気の‘無声破擦音’である。

発音要領は、舌先をそり上げて硬口蓋にあて、舌先と硬口蓋の隙間から息を摩擦するようにして出す。声帯は震わせない。ch も同じ要領で発音するが、これは zh と対照の有気音で、息を強く出す。両者とも日本語にはない‘捲舌音’であるため、初学者には相当の努力が要る。

⑥ j [tʃ] 無気の‘舌面音’ ←→ q [tʃʰ] 有気の‘舌面音’

ji (大地・無知・スイッチの‘チ’) —— qi (チャンネルの‘チ’)

jia (紅茶・ピッチャー‘チャ’) —— qia (チャイナ・チャンス・チャレンジの‘チャ’)

jie (御知恵・一会の‘チェ’) —— qie (チェス・チェックの‘チェ’)

#### 4. 韻母

韻母は合計 38 個ある。それらは単韻母、複韻母、捲舌韻母および鼻韻母の 4 種類に分けられる。

##### 【1】単韻母

単韻母とは 1 つの母音から成る韻母で、a [a], o [o], e [ɤ], ê [ɛ], -i [ɿ], -i [ʅ], i [i], u [u], ü [y] の 9 つがある。このうち ê [ɛ] は(感動詞としての単用を除いて)単独では存在せず複韻母にのみ現れる。また -i は声母 zh, ch, sh, r の曖昧韻母である‘舌尖後韻母’[ʅ] および声母 z, c, s の曖昧韻母である‘舌尖前韻母’[ɿ] として用いられるのみである。(この -i は単韻母 i [i] の発音では決していないので注意を要する)。したがって、実際には 6 つの単韻母のみが存在することになる。単韻母の中で日本人学生にとってとりわけ習得困難な発音といえば e と ü の二つが挙げられよう。他の韻母の a i u ê o は日本語のアイウエオの発音に近いので、やや工夫をすれば比較的問題なくクリアできるであろう。但し、中国語の韻母のほうはまだ少し口形のはっきりした発音であるため、日本語のアイウエオに比べそれぞれの特徴を強調する必要がある。a については日本語のアよりも大きく口を開け、i は日本語のイよりずっと口を左右に引き、舌の位置もかなり前寄りにする。u は日本語のウより口をすぼめて突き出し日本語に比べて舌の位置もかなり奥寄りにする必要があり、ê は日本語のエより口をより左右に引き、o は日本語のオより口をまるくして突き出すようにする。

さて、ここで日本人初学者にとって発音の難しい単韻母の一つである e [ɤ] を取り上げ、その発音要領を検討してみよう。単韻母 e は後述の複韻母 ie [iɛ] の [ɛ] の発音ではない。単韻母 e は舌を後舌半狭にし、口をすぼめず、やや左右に平たく広げる。要領は、まず o を発音し舌はそのまま唇を左右に平らに引くか、又はエの構えでオを発音するとこの音が出せる。日本語にはない韻母であるため日本人学生には習

得困難な発音の一つであるが、練習時のコツとしては腹の底から吐くような要領でやれば案外習得しやすいかも知れない。

つづいて単韻母  $\ddot{y}$  [y] の発音要領を説明しよう。てっとり早い発音法としては唇を強くすぼめた‘ユ’の口形で‘イ’[i]と発音すれば簡単にこの音が出せるが、しかし、北京語音の観点からより正確な発音を求めるなら、やや難しいが、実際には逆にまず‘イ’[i]の音を出し舌の位置をそのまま保ち口を小さくすぼめる。こちらのほうが正音が出しやすい。その際‘イユ’などと二音にならないよう、必ず一音で発音するように注意する。

## 【2】複韻母

複韻母とは2つまたは3つの母音から成る韻母で、計13個ある。

2つの母音から成るものには ai [ai], ei [ei], ao [au], ou [əu], ia [ia], ie [ie], ua [ua], uo [uo], üe [yɛ] の計9個がある。発音の強弱は ai, ei, ao, ou については前の母音をはっきり発音され、ia, ie, ua, uo, üe については後ろの母音をはっきり発音される。それぞれ日本語のアイ、エイ、アオ(もしくはアウ)、オウ、イア、イエ、ウア、ウオ、ユエの発音に近い。3つの母音から成るものには, iao [iau], iou(iu) [iəu], uai [uai], uei(ui) [uei] の4個がある。これらは全て真ん中をはっきりと発音され、それぞれ‘イアオ’(又は‘イアウ’)、‘イオウ’、‘ウアイ’、‘ウエイ’に近く、滑らかな連続した一音節として発音するのが要領である。したがって現実音は iao が‘ヤォ’、iou が‘ヨウ’、uai が‘ワイ’という発音にほぼ近い。

ここで留意すべき発音は iou と uei である。この二つは前に子音が付く場合には、表記上それぞれ o と e が省略され、iu と ui になる。

iu の表記に関連する音節には you, miu, diu, niu, liu, jiu, qiu, xiu の計8つがあるが、発音練習の際には i と u の間にやや軽く短い o の音を入れる。you ‘ヨウ’は複韻母 iu ‘イオウ’がそのまま音節となったものであるが、他の例で言えば miu は‘ミオウ’、niu は‘ニオウ’、liu は‘リオウ’、jiu は‘チオウ’、xiu は‘シオウ’となり、コツとしては音が跳ばないようにそれぞれ必ず連続した一音節で滑らかに発音する。例を挙げると、‘老酒 (laojiu)’は従って‘ラォチュウ’ではなく‘ラォチオウ’に近い。

ui の表記に関連する音節には wei, dui, tui, zui, cui, sui, zhui, chui, shui, rui, gui, kui, hui の計13個がある。上述したように ui は uei (ウエイ) と発音し、u と i の間に ê (エ) を明確に入れた3母音から成っていることを忘れてはならない。wei は uei がそのまま音節となったものであるが、ほかの例えば zui は‘ツウエイ’、sui は‘スウエイ’、kui は‘クエイ’、hui は‘ホエイ’となる。但し、それぞれ音がばらばらにならないように必ず連続した一音節で発音することが肝要である。

(以上のほか、注目すべきことではあるが、現実の語音の観点から一つ指摘しておく

たいことがある。それは複韻母の ei であるが、その発音は上述の如く日本語の‘エイ’に近いが、実際に複韻母 ei を伴う全ての音節を北京語音の観点から検討してみると、一つやや難点が生ずるのに気付くであろう。実際に ei を伴う音節としては ei, bei, pei, mei, fei, dei, nei, lei, zei, zhei, shei, gei, kei, hei の計 14 個あるが、この中で hei の ei については現実の北京語音は程度の差はあるが完全なる ei ‘エイ’ではない。ここの e は単韻母の e [ɤ] (或は [ə]) に近く、従って hei は he [x ɤ] に i を添える感じで発音したほうが現実の北京語音に近い。この点を実際の発音指導の中でどのように体系づけ反映させていくかは今後の課題であろう。

### 【3】捲舌韻母 er [ə]

er は単韻母に含めて考えることもあるが、小稿では単独の捲舌韻母として扱う。この捲舌韻母 er の発音要領はあいまい母音 e [ə] を発音するとき舌先をクルッと上側に捲いて（即ち、そり上げる要領で）硬口蓋に近づけるのが特徴であり、独立した一音節としてはこの er の 1 個だけである（但し、前の音節と結合して一音節化し‘r 化音’となることもある）。これは日本語にはない音であるため日本人初学者にとっては特にマークすべき発音の一つである。例えば‘二(er)’は英単語“her”の‘er’に近い。他にも例えば末尾に r [ə] の付いた英単語“far” “tower” “shower”等の音を思い起こせば、この‘そり舌韻母’の発音要領がつかめよう。

### 【4】鼻韻母

鼻韻母とは鼻音を伴った韻母で、合計 16 個ある。混同しやすい鼻韻母どうしを比較対照する便宜上、下記①②④⑤⑦⑧に示す如くペアにして対比併記した。この所謂“n と ng の区別”は日本語では特に意識されないため、日本人初学者にとっては習得上最難関の一つになっているマークすべき発音である。この鼻韻母の把握は特に重要と思われるので、各音節について日本語における近似・類似の語音例を参考としていくつか上げていくこととしよう<sup>4)</sup>。

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| ① an [an]       | ——ang [aŋ]   |
| ② en [ən]       | ——eng [eŋ]   |
| ③               | ——ong [oŋ]   |
| ④ ian [iɛn]     | ——iang [iɑŋ] |
| ⑤ in [in]       | ——ing [iŋ]   |
| ⑥               | ——iong [iʊŋ] |
| ⑦ uan [uan]     | ——uang [uaŋ] |
| ⑧ un(uen) [uən] | ——ueng [uəŋ] |
| ⑨ üan [yan]     |              |

## ⑩ ün [yn]

初学者にとって発音が混乱もしくは混同しやすいのは、①②④⑤⑦⑧の6ペア、計12個の鼻韻母である。

その他の鼻韻母については混同する対象がないので比較的安心であるが<sup>5)</sup>、一応ここにそれらの発音要領をまず記しておこう。

③の鼻韻母 ong [uj] は基本的には日本語の‘オン’に近いが、音声記号からも窺われるように、正確にはoの前にu(ウ)の音をやや入れるのが正しい。したがってoを発する前に口形としては唇をすぼめたu(u)の態勢で‘オン’(又はッオン)と発音すればよい。このongは単独では音節とはならず必ず他の声母と結んで音節を構成する特殊な韻母である。ongを有する音節はdong, tong, nong, long, zong, cong, song, zhong, chong, rong, gong, kong, hongの13個である。日本語の近似例を紹介しよう。

- dong 1 トンカーの‘トン’に近いが、上述の要領をつかみ、実際にはやや‘ウ’の音をいれたほうがベターである(以下同じ)[無気音]
- tong とんかつ・トンガ・敦煌の‘トン’に近い[有気音]
- nong のんき・ノンキャリア・ノンクレジットの‘ノン’に近い
- long ロング・論語・論議・論外の‘ロン’に近い
- zong ‘ツォン’に近い[無気音]
- cong 上記 zong に対する有気音
- song 損害・尊敬・ソング・村会の‘ソン’に近い
- zhong 捲舌音 zh に鼻韻母 ong が結びついたもの[無気音]
- chong 捲舌音 ch に鼻韻母 ong が結びついたもの[有気音]
- rong ‘ロン’のように聞こえることがあるが捲舌音であることに注意
- gong 結婚観の‘コン’に近い[無気音]
- kong 根気・今後・混合・コンクール・コンクリートの‘コン’に近い[有気音]
- hong 本気・基本給・本格的・香港・本腰の‘ホン’に近い

⑥の iong [iuŋ] の発音は‘イオン’(又はヨン)に近いが、上述の ong と同様、ong の前、即ち i と o の間に口をすぼめた u ‘ウ’の音をやや入れるのが正しい。この鼻韻母 iong を有する音節は下記の4つである。

- yong 四階(よんかい)・クレヨン画の‘ヨン’に近い、iong がそのまま音節となる
- jiong ちゃん切る・チョンガークラブの‘チョン’に近い[無気音]
- qiong 上記 jiong に対する有気音
- xiong クッションカバー・デコレーションケーキの‘ション’に近い

⑨の鼻韻母 üan [yan] は、日本語の‘ユアン’(もしくは‘ユエン’)に近いが、正

確には単韻母 ü の項でもふれたように口をよりすぼめた形で発音するのが正しい。  
üan を有する音節は下記の4つである。

- yuan 所以(ユエン)に近い(もしくは‘ユアン’), üan がそのまま音節となる
- juan ‘チュエン’(又は‘チュアン’)に近い[無気音]
- quan 上記の juan に対する有気音
- xuan 酒宴・主演(シュエン)または手腕(シュワン)に近い

⑩の鼻韻母 ün [yn] は日本語の‘ユン’にとりわけ近く、これで一応問題ないが、理想としては単韻母 ü の発音要領を想起し、口形をすぼめたより正確な発音法を心がけるべきである。ün を有する音節は4つある。

- yun ‘ユン’に近い
- jun ‘チュン’に近い[無気音]
- qun 上記 jun に対する有気音
- xun 旬の・一瞬に・春闘の‘シュン’に近い

以上の③⑥⑨⑩は鼻韻母のうち混同する対象のないものばかりであるので、入門者にとっても区別上特に混乱することはないであろう。ここで問題としてクローズアップされてくるのはそれら以外の上記6ペア12個の鼻韻母である。これらは日本人学生にとって混同が生じやすいため、それぞれの発音上の特徴をつかんで的確に区別する工夫を考える必要がある。

以下、-n は‘舌尖鼻韻母’、-ng は‘舌根鼻韻母’である。

#### ①の an [an] と ang [aŋ] の区別

an はまず a を発音するが、その際、舌の位置は単韻母の a よりやや前に置く。つづいて舌先を上歯茎にあてて離さないようにし、息を鼻から出す。短く発音するのがコツである。an を有する音節は下記の如く19個ある。

- an アンテナ・案内・安堵の‘アン’に近い、an がそのまま音節となる
- ban 一般的の‘パン’に近い[無気音]
- pan パンダ・パントマイム・パンナコッタの‘パン’に近い[有気音]
- man まんなか・満タン・マント・マンダリン・マンネリの‘マン’に近い
- fan 英語の‘fan’に極めて近い発音
- dan 異端の・牡丹の花・‘簡単に’の‘タン’に近い[無気音]
- tan 短大・単調・丹念・担当の‘タン’に近い[有気音]
- nan 何年・難読・難点・南東の‘ナン’に近い
- lan 乱読・蘭の花・ランナー・ランドセルの‘ラン’に近い
- zan ‘ツァン’に近い[無気音]
- can 上記 zan に対する有気音

san	サンタ・三人・産地・山頂・参入の‘サン’に近い
zhan	捲舌音 zh に鼻韻母 an が結びついたもの [無気音]
chan	上記 zhan に対する有気音
shan	捲舌音 sh に鼻韻母 an が結びついたもの
ran	‘ラン’のように聞こえることもあるが捲舌音であるので注意
gan	ミカンの花・時間の問題・実感的の‘カン’に近い [無気音]
kan	感動・監督・観音・カンニングの‘カン’に近い, 上記 gan に対する有気音
han	反応・反対・判断・犯人・ハンドルの‘ハン’に近い

一方の ang は、まず舌の位置がやや後ろ寄りの a を発音し、つづいて舌を奥に引く。舌根を軟口蓋に寄せ鼻から息を出す。要領としては音節末尾の鼻音 ‘ng’ [ŋ] を強調し、鼻に強くかけて発音する。最後は口がやや開いた状態で舌根が軟口蓋につく。ang を有する音節は上述の an にそれぞれ対応するもので、同じく 19 個ある。

ang	館かけ・あんこう・暗号・アングル・アンコール・案外の‘アン’に近い
bang	審判官・出版記念・運搬口の‘バン’に近い, アウトバーンの‘バーン’の如く聞こえることもあるが濁音ではないので注意を要する [無気音]
pang	パン粉・パンク・パンケーキの‘パン’に近い [有気音]
mang	漫画・万が一・マンゴー・マングースの‘マン’に近い
fang	英語の f に鼻韻母 ang が結びついた発音に近い
dang	負担減・感嘆語・最短距離の‘タン’に近い [無気音]
tang	短期・単語・タンク・端午の‘タン’に近い [有気音]
nang	軟膏・難行・何月・難儀の‘ナン’に近い
lang	蘭学・乱気流・欄外・ランクの‘ラン’に近い
zang	‘ツァン’に近い [無気音]
cang	上記 zang に対する有気音
sang	〇〇さんが・珊瑚・参加・三角・サングラス・サンキューの‘サン’に近い
zhang	捲舌音 zh に鼻韻母 ang が結びついたもの [無気音]
chang	捲舌音 ch に鼻韻母 ang が結びついたもの [有気音]
shang	捲舌音 sh に鼻韻母 ang が結びついたもの
rang	捲舌音 r に鼻韻母 ang が結びついたもの
gang	交換券・夜間金庫・玄関口の‘カン’に近い [無気音]
kang	観光・寒気・缶切り・看護・間隔・歓迎の‘カン’に近い, 上記 gang に対する有気音
hang	ハンカチ・ハンブル・繁華街・ハンガーの‘ハン’に近い

②の en [ɛn] と eng [ɛŋ] の区別

en はまずあいまい母音 [ə] を発音し、つづいて舌先を上歯茎にあてて鼻から息を抜く。コツは短く発音することである。en を有する音節は en, ben, pen, men, fen, den, nen, zen, cen, sen, zhen, chen, shen, ren, gen, ken, hen の 17 個である（最初の 'en' は鼻韻母 en がそのまま音節となったもの）。この en の発音要領は上述の如く [ə] の発音が入るので初学者にとっては難音の一つになる。

一方の eng は [ə] を発音したあと舌根を軟口蓋につけ鼻から息を出す。この鼻韻母は特に鼻にかけるのが特徴の発音で、要領としては 'ng' を強調する気持ちで [ə] に 'ンッ' をつけて発音すればよい。eng を有する音節には eng, beng, peng, meng, feng, deng, teng, neng, leng, zeng, ceng, seng, zheng, cheng, sheng, reng, geng, keng, heng の 19 個がある。この中で特に 'feng' については英語の f を念頭において、'フォン' と発音すればほぼ正確な音が出る。

#### ④の ian [iɛn] と iang [iaŋ] の区別

ian と iang はそのローマ字表記が似ているため混同しやすいが、実際の音はそれぞれ全く異なるので習得上の混乱はないはずである。

ian は、i と n の間にある 'a' が [ɛ] (エ) と発音される。したがって ian は 'イエン' に近い。ian を有する音節は下記の 11 個である。

- yan ian がそのまま音節となる。上述の如く 'イエン' の発音であるが、胃炎(イエン)に近い。
- bian まず bi は執筆(シッピツ)のピに近い無気音であり、これに 'エン' を付けた 'ピエン' がその音である。鼻炎(ピエン)のように聞こえることもあるが決して濁音ではないので注意を要する。
- pian 上記の bian に対する有気音、'ピエン' に近い
- mian 見えん(ミエン)に近い
- dian 下記 tian に対する無気音
- tian ティーバッグのティー或いは T シャツの T に 'エン' をつけた発音 'ティエン' に近い [有気音] 但し、滑らかな一音節で発音する
- nian 二円・煮えん(ニエン)に近い
- lian 離縁(リエン)に近い
- jian 一円・幼稚園の 'チエン' に近い [無気音]
- qian 上記 jian に対する有気音、チェーン店の 'チェーン' に近い
- xian 支援(シエン)に近い

一方、iang は、単韻母 i に ang が結びついたものである。発音は 'イアン' となるが、実音はこれよりやや縮まった 'ヤン' に近い。但し、正確にはもっと強く鼻にかかる音である。iang を有する音節は下記の 6 個のみである。

yang	iang がそのまま音節となる。慰安会の‘イアン’或いはヤング・ヤンキーの‘ヤン’に近い
niang	ニャンコの‘ニャン’に近い
liang	高粱ごはんの‘リャン’に近い
jiang	赤ちゃん言葉・ちゃんちゃんこの‘チャン’に近い [無気音]
qiang	ちゃんこ鍋の‘チャン’に近い [有気音]
xiang	シャンク・シャングリラの‘シャン’に近い

⑤の in [in] と ing [iŋ] の区別

in は‘イ’を発音したあと舌先を上歯茎にしっかりあてて‘ン’と言う。この in (イン) の特徴は鼻音‘n’を短く止めることにあり、日本語で例えば、引導・因縁・隠通・インドの‘イン’がそれに近い。in を有する音節は下記の9つである。

yin	印肉・隠匿・インチ・イントネーション・引退・インテリアの‘イン’に近い、in がそのまま音節となる。
bin	フィリピン島・出品・逸品・別品の‘ピン’に近い [無気音]
pin	ピンチ・ピンナップ・ピントの‘ピン’に近い [有気音]
min	ミンチ・明朝・みんな・ミントの‘ミン’に近い
nin	ニンニク・認定・忍耐の‘ニン’に近い
lin	隣地・輪廻・リンチ・林道・輪読の‘リン’に近い
jin	景気沈滞・色素沈着の‘チン’に近い [無気音]
qin	上記 jin に対する有気音
xin	診断・身体・信託・震度・心中・侵入・シンナーの‘シン’に近い

一方、ing は鼻音‘ng’が長く残るのが特徴である。故に in と比べて鼻音がずっと強く鼻にかかる。要領としては、尾音 ng [ŋ] を意識的に強調し長く延ばすようにして発音練習するのがコツである。鼻に息を十分通し、最後はやや口が開きかげんになる。日本語の例を観察するとこの鼻音 ng の部分がやや弱いのが、以下に参考としていくつか語例を挙げておこう。なお、ing を有する音節は11個あり、in に比べて2個多い。

ying	イングリッシュ・隠語・因果・インク・懨懨の‘イン’に近い、ing がそのまま音節となる
bing	ダンピングの‘ピン’に近い [無気音]
ping	ピンク色の‘ピン’に近い [有気音]
ming	ミンク・タイミング・民家・民芸の‘ミン’に近い
ding	コーティングの‘ティン’に近い、ディーンのように聞こえることもあるが濁音ではない [無気音]
ting	ティーンエイジャーの‘ティーン’に近い [有気音]

ning	人形・人間・カンニングの‘ニン’に近い
ling	リングル注射・林檎・臨海・リングの‘リン’に近い
jing	低賃金・赤ちんき・地盤沈下・バードウォッチングの‘チン’に近い [無気音]
qing	上記 jing に対する有気音
xing	芯が強い・シンガー・シングルの‘シン’に近い

⑦の uan [uan] と uang [uaŋ] の区別

uan は単韻母 u に an が結び付いたものである。したがって発音は‘ウアン’となるが実際には‘ワン’に近い。コツとしては最後に舌先を上歯茎にあてて鼻音 n (ン) を短く止めるのが特徴である。uan を有する音節は 15 個ある。

wan	ワンダフル・ワンツースリーの‘ワン’に近い, uan がそのまま音節となる
duan	下記 tuan に対する無気音
tuan	英語 two [tu:] の [tu] に an [an] がついたもので‘トゥアン’に近い [有気音]
nuan	‘ヌアン’に近い
luan	‘ルアン’に近い
zuan	‘ツァン’ 又は ‘ツワン’ に近い [無気音]
cuan	上記 zuan に対する有気音
suan	吸わん・スワンに近い
zhuan	捲舌音 zhu に鼻韻母 an がついたもの [無気音]
chuan	捲舌音 chu に鼻韻母 an がついたもの [有気音]
shuan	捲舌音 shu に鼻韻母 an がついたもの
ruan	捲舌音 ru に鼻韻母 an がついたもの
guan	タクアン煮の‘クワン’に近い [無気音]
kuan	食わんの? の‘クワン’に近い [有気音]
huan	保安庁の‘ホアン’に近い

一方 uang は単韻母 u に ang が結び付いたものであるが、前述したように ang は‘舌根鼻韻母’であるので舌根を軟口蓋につけて特に鼻に強くかかるようにして‘ウアーン’または‘ワーン’と長くのばすのがコツである。最後は口をやや開いた状態で終わるのが特徴である。uang を有する音節は 7 つである。

wang	湾曲・湾岸の‘ワン’に近い, uang がそのまま音節となる
zhuang	捲舌音 zhu に鼻韻母 ang がついたもの [無気音]
chuang	捲舌音 chu に鼻韻母 ang がついたもの [有気音]
shuang	捲舌音 shu に鼻韻母 ang がついたもの

guang たくあん粥の‘クアン’に近い [無気音]  
 kuang 食わんかゝの‘クアン’に近い [有気音]  
 huang 保安官の‘ホアン’に近い

⑧の un [uən] と ueng [uəŋ] の区別

un はよく‘ウン’と発音されるように聞こえることがあり、その発音で一応問題はないが、もともと un は単韻母 u に en が結びついたものであるため、より正確には‘uen’ [uən] と発音しなければならない。したがって実際には [ə] の音が若干入るのが正しい。決して日本語音の‘ウェン’ではないので注意を要する。un を有する音節は下記の 14 個である。

wen un がそのまま音節となる、云々・運動の‘ウン’に近い  
 dun 下記 tun に対する無気音  
 tun 英語 two [tu:] の [tu] に‘en’が結びついたもの、‘トゥン’に近い [有気音]  
 lun ‘ルン’に近い  
 zun ‘ツウン’に近い [無気音]  
 cun 上記 zun に対する有気音  
 sun ‘スウン’に近い  
 zhun 捲舌音 zhu に鼻韻母 en がついたもの [無気音]  
 chun 捲舌音 chu に鼻韻母 en がついたもの [有気音]  
 shun 捲舌音 shu に鼻韻母 en がついたもの  
 run 捲舌音 ru に鼻韻母 en がついたもの  
 gun ‘〇〇君の’の‘クン’に近い、濁音の‘グン’ではない [無気音]  
 kun 一くんだり・薰陶の‘クン’に近い、上記 gun に対する有気音  
 hun ‘ホ’の構えで韻母を‘ウ’にし-nをつける、‘ホウン’に近い。或は英語の hood [hud] の [hu] に [ən] がついた発音により近い

一方 ueng は日本語音の‘ウォン’に極めて近い発音で、ほぼそれで問題ないと思われるが、ueng はもともと単韻母 u に eng が結びついたものである。ポイントとしては鼻音 ng を強調するため、舌根を軟口蓋につけたあと息を通して鼻に強くかかるようにする。この ueng は声母と結んで音節を構成する例はなく、実際には、この鼻韻母 ueng が唯一の音節として存在するのみである。

weng ueng がそのまま唯一の音節となる、ジュディウォングの‘ウォン’に近い

## 5. あとがき

以上は日本語音声を用いた中国語発音習得法の試案であり、日本人初学者のための中国語音節へのアプローチの一つとして提示したものである。小稿は筆者の実際の教学経験に基づいて整理したものであるが、これは入門者が少しでも速くスムーズに中国語の語音がマスターできることを願って工夫した方法である。(紙幅の関係から語音例をいくつか割愛したケースも少なくないが、)各音節について日本語の近似の音声例を挙げ、時には英語音をも援用して叙述したが、これによっていくらかでも語音の把握や習得の助けになれば幸いと考えている。しかし実際には、例えば日本語にない‘捲舌音’等まったくお手上げの音節を含め、十分に対応する語音を例示し得ないケースも多数存在する。もともと日本語音声を引用して中国語の発音の説明を行うこと自体自ずと限界があろう。日本語音の援用であるためどうしても原音を正確には表し切れない部分があり、結果として無理が多々あるのを痛感する。しかし、日本語音声を最大限動員して発音の説明を試みようとするこの方法はそれでも初歩の日本人学生にとって決して意味のないことではないであろう。それは少なくとも初学者が中国語音を学習する際の一つの参考や手がかりにはなるものと信じている。

なお、本試案には不備な点が多々あると思われるが諸賢のご教示を乞い補正をしていきたいと考えている。

1997年春節 於聖・莫尼卡

### 注

- 1) 小稿では声母の分類に「唇音・舌尖音・舌尖前音・舌尖後音・舌面音・舌根音」の用語を、韻母の分類に「単韻母・複韻母・鼻韻母」の用語を用いたが、これは『實用漢語課本』(北京語言学院)に拠る。
- 2) 但し、例外として「m」「n」「ng」「hm」「hng」等がある。
- 3) 小稿で挙げた日本語例の子音は、有気音については語頭に現れるものを、無気音については語中に現れるものを基本的に想定した。語例の有気/無気は、一般的にそのように認められると考えられるものであるが、中には異論がある語例もあるかも知れない。
- 4) 日本語の「ン」は環境によって以下の4種類の音声として現れ得る。  
したがって鼻韻母-nについては②に該当する用例を、鼻韻母-ngについては③に該当する語例を基本的に挙げてある。
  - ① [N] これで終わる言い切りの場合
  - ② [n] ナ行・タ行・ダ行の前にくる場合
  - ③ [ŋ] カ行・ガ行の前にくる場合
  - ④ [m] マ行・バ行・パ行の前にくる場合
- 5) ここに示した①~⑩の鼻韻母の対比は初学者のn/ngの区別学習のために、ローマ字発音表記に着目して便宜上設定したものである。音韻論的にはongはuengと併記さ

れ、iong は un と対比されるべきものである。

文献

『實用漢語課本（第一冊）』北京語言学院 商務印書館 1985年

『音声学』服部四郎 岩波書店 1984年

「中国語の有気・無気子音と日本語の無声・有声子音の生理的・音響的・知覚的特徴と教育」朱春躍『音声学会会報』第205号 日本音声学会1994年 所収

『日本語音声学』天沼寧・大坪一夫・水谷修 くろしお出版 1996年

『広辞苑』（第四版）新村出 岩波書店 1991年

（本稿は1993年度名古屋学院大学研究奨励金の研究成果の一部である）

[附記] 小稿は校正の段階で樋口勇夫氏より貴重なご意見をいただいた。ここに感謝の意を表わしたい。

《附表》「共通語の声母韻母組合せ一覧表」

普通話声韻拼合總表

Table of the Combinations of the Initials and Finals in Common Speech

韻母 声母	a	o	e	ê	-i	er	ai	ei	ao	ou	an	en	ang	eng	ong	i	ia	iao	ie
	a	o	e	ê		er	ai	ei	ao	ou	an	en	ang	eng		yi	ya	yao	ye
b	ba	bo					bai	bei	bao		ban	ben	bang	beng		bi		biao	bie
p	pa	po					pai	pei	pao	pou	pan	pen	pang	peng		pi		piao	pie
m	ma	mo	me				mai	mei	mao	mou	man	men	mang	meng		mi		miao	mie
f	fa	fo						fei		fou	fan	fen	fang	feng					
d	da		de				fai	dei	dao	dou	dan	den	dang	deng	dong	di	dia	diao	die
t	ta		te				tai		tao	tou	tan		tang	teng	tong	ti		tiao	tie
n	na		ne				nai	nei	nao	nou	nan	nen	nang	neng	nong	ni		niao	nie
l	la	lo	le				lai	lei	lao	lou	lan		lang	leng	long	li	lia	liao	lie
z	za		ze		zi		zai	zei	zao	zou	zan	zen	zang	zeng	zong				
c	ca		ce		ci		cai		cao	cou	can	cen	cang	ceng	cong				
s	sa		se		si		sai		sao	sou	san	sen	sang	seng	song				
zh	zha		zhe		zhi		zhai	zhei	zhao	zhou	zhan	zhen	zhang	zheng	zhong				
ch	cha		che		chi		chai		chao	chou	chan	chen	chang	cheng	chong				
sh	sha		she		shi		shai	shei	shao	shou	shan	shen	shang	sheng					
r			re		ri				rao	rou	ran	ren	rang	reng	rong				
j																ji	jia	jiao	jie
q																qi	qia	qiao	qie
x																xi	xia	xiao	xie
g	ga		ge				gai	gei	gao	gou	gan	gen	gang	geng	gong				
k	ka		ke				kai	kei	kao	kou	kan	ken	kang	keng	kong				
h	ha		he				hai	hei	hao	hou	han	hen	hang	heng	kong				

iu	ian	in	iang	ing	iong	u	ua	uo	uai	ui	uan	un	uang	ueng	ü	üe	üan	ün
you	yan	yin	yang	ying	yong	wu	wa	wo	wai	wei	wan	wen	wang	weng	yu	yue	yuan	yun
	bian	bin		bing		bu												
	pian	pin		ping		pu												
miu	mian	min		ming		mu												
						fu												
diu	dian			ding		du	duo		dui	duan	dun							
	tian			ting		tu	tuo		tui	tuan	tun							
niu	nian	nin	niang	ning		nu	nuo			nuan					nü	nüe		
liu	lian	lin	liang	ling		lu	luo			luan	lun				lǜ	lüe		
						zu	zuo		zui	zuan	zun							
						cu	cuo		cui	cuan	cun							
						su	suo		sui	suan	sun							
						zhu	zhua	zhuo	zhuai	zhui	zhuan	zhun	zhuang					
						chu	chua	chuo	chuai	chui	chuan	chun	chuang					
						shu	shua	shuo	shuai	shui	shuan	shun	shuang					
						ru	rua	ruo		ruì	ruan	run						
jiu	jian	jin	jiang	jing	jiong										ju	jue	juan	jun
qiu	qian	qin	qiang	qing	qiong										qu	que	quan	qun
xiu	xian	xin	xiang	xing	xiong										xu	xue	xuan	xun
						gu	gua	guo	guai	gui	guan	gun	guang					
						ku	kua	kuo	kuai	kui	kuan	kun	kuang					
						hu	hua	huo	huai	hui	huan	hun	huang					

(北京語言学院『實用漢語課本第一冊』商務印書館1985年所収)